

ゴルフエッセー「耳と耳のあいだ」(第2回)

シニアプレーヤーに「変化への対応力」を学ぶ

2015.09.17



8月20日からノースカロライナ州で開催された米国男子レギュラーツアー「ウイングダム選手権」は、特別な注目を集めた大会となりました。若手選手を抑えて優勝した51歳のデービス・ラブIII(三世)選手(米国)のプレーに、勇気づけられた視聴者・観戦者は多くいたに違いありません。

米国ゴルフツアーでは50歳を超えたプレーヤーはレギュラーツアーではなく、チャンピオンズツアーと呼ばれるシニア競技に主戦場を移すのが一般的です。そうした中で、シニアプレーヤーがレギュラーツアーの優勝という結果を出した「変化への対応力」には驚嘆するばかりです。

選手の形相が変わる「ウイングダム選手権」

特に「ウイングダム選手権」は参加選手の形相が変わる特別な試合です。来季のシードと次週からの「プレーオフシリーズ」参戦への権利をかけたランキング(フェデックスランク)が決定される最終戦だからです。シードのボーダーラインにいる選手や、参戦の権利に可能性の残っている選手にとっては“運命の一戦”ということで、混戦は必至でした。

また、この試合に衆目が集まったもう1つの理由が、タイガー・ウッズ(米国)の復活優勝なるかという点。スキャンダルに加え、ケガ続きで低迷していたタイガーが首位と2打差の2位で最終日を迎えており、2013年以来の優勝、ツアー通算80勝目なるかが注目されていたのです。

結果は10位タイに終わるも、さまざまな経験を経てひと皮むけたタイガーが、彼らしさを失うまいと必死に“39歳の自分探し”をしてもがいている姿は、とても好感が持てました。そんな試合で勝利の女神が微笑んだのがデービス・ラブIIIでした。

デービス・ラブIIIは、90年代後半から2000年代にかけて大活躍した選手です。最近では試合に参戦するかたわら、ナショナルチームの名誉職を担ったり運営に関わったりして、ゴルフ界を盛り上げる活動を楽しんでいるそうです。

最後の優勝は2008年、今回は実に7年ぶりの美酒ということになります。この間の道りは厳しいもので、前回の優勝から成績は下降の一途。チャンピオンズツアーに入っても勝利に恵まれず、今春には右足の手術により引退の危機に陥りました。それを必死のリハビリで乗り越えてつかんだ優勝でした。

変化への対応力があるからこそプレースタイルが変わらない… 続きを読む